

標準委員会 システム安全専門部会 定期安全レビュー分科会
第 26 回定期安全レビュー分科会 (P6Ph2SC26) 議事録

1. 日 時 2013 年 7 月 24 日 (水) 13 時 00 分～16 時 15 分
2. 場 所 東京大学 工学部 8 号会館 809 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 岡本主査 (東大)、伊藤副主査 (JNES)、成宮幹事 (関電)、上野委員 (MRI)、
倉本委員 (NEL)、中村代理 (工藤委員代理) (JAEA)、山崎委員 (原電)、平川
委員 (原安進)、村上委員 (東大)、伊藤委員 (中部電)、渡辺委員 (東電)、
中野委員 (関電) (12 名)
(常時参加者) 曾根 (東北電)、古賀 (電発)、日渡 (電中研)、松本 (四電)、中川 (NEL)、
角田 (東京)、神田 (中国電)、林 (関電)、宮森 (北陸) (9 名)
(傍聴者) なし
4. 配布資料
P6Ph2SC26-0 第 26 回 PSR 分科会議事次第
P6Ph2SC26-1 第 25 回 PSR 分科会議事録 (案)
P6Ph2SC26-2-1 人事について
P6Ph2SC26-2-2 定期安全レビュー分科会名簿
P6Ph2SC26-3-1 改定実施基準案一式
P6Ph2SC26-3-2 7 章安全因子への委員コメント
P6Ph2SC26-4 今後のスケジュール
参考資料 1 第 25 回 PSR 分科会議事メモ (案)

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 13 名中 12 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録について (P6Ph2SC26-1)

成宮幹事より、前回議事録の確認があり、承認された。

(2) 人事について (P6Ph2SC26-2-1、2)

人事案件なし

(3) 改定文案について (P6Ph2SC26-3-1、2)

a. 4 章 P S R の実施目的 (説明：成宮幹事)

○前回分科会の議論を踏まえて修正した文案の紹介があり、議論した結果以下の文案で

FIXとし、今後原則として見直さないこととした。

「PSRとは事業者自らが今後の10年を見越した特別な安全レビューを実施することである。具体的には、個々の安全因子に対し日常の品質保証活動とは一線を画した先見的なレビューを戦略的且つ詳細に行い、安全因子のレビュー結果に基づく総合評価を実施して、妥当且つ実行可能な安全性向上措置の抽出と実施計画を定める。

これにより卓越した安全性を継続的に向上することができる。」

○本文にイメージ図を記載すること。

○表題を「PSRの実施目的」→「PSRの目的」に変更する。

b. 5章PSRの実施原則（説明：成宮幹事）

○「図5.2-1 原子力発電所のPSRの全体的なプロセス」をより詳細に記載すること。

○「安全性向上措置」、「総合評価」に記載を統一すること。また、以下のとおり語句を修正すること。

・「余地を認識し、余地を埋めるために有効な安全向上措置を抽出する。」

→「余地を認識し、有効な安全性向上措置を抽出する。」(5.1一般事項)

・「規約および基準」→「規格基準」(5.2.2安全因子のレビュー)

・「肯定的な調査結果」→「肯定的な結果」(5.2.2安全因子のレビュー)

・「否定的な調査結果」→「否定的な結果」(5.2.2安全因子のレビュー)

○5.2.2安全因子のレビュー

安全因子のレビューにおいて「否定的な結果」には幅がある（不適合だけでなく、ヒヤリハットも考慮する）旨を記載すること。

c. 6章PSRの実施計画策定（説明：成宮幹事）

○6.2 調査対象期間

プロアクティブな視点を記載すること。

○6.3 PSRの実施体制

・5.2.1 評価のプロセスの内容を考慮し、本項に各プロセスを実施する者がどのような人物かを具体的に記載すること。

・全社レビューと第三者独立レビューをどちらか一方にすることを検討すること。

・第三者独立レビューにマストではないが、JANSI や原子力学会等の第三者独立機関を活用することが望ましいという旨の記載を検討すること。

d. 7章安全因子の適切性・有効性のレビュー（説明：成宮幹事）

因子1～因子5について文案を確認し議論を行った。主なコメントは以下のとおり。

○因子1～因子14

・「総合評価へつながるアウトプットの例」を記載すること。

○因子1 プラント設計

- ・翻訳調の文書を修正すること。
- ・「安全性向上評価」と「PSR」の関係の明確について
⇒形が不明確な「安全性向上評価」をPSRのインプットとして記載することは出来ないため、「安全性向上評価」と「PSR」の関係については記載しないこととする。
- ・安全上重要な設備でない設備であっても、間接的に安全上重要な設備に影響を与える設備を抽出し、有無を確認する旨を記載すること。
- ・実施項目への根本的な設計思想のレビューの追記について
⇒深層防護の妥当性の評価でフォローできるとの意見があり、本変更は実施しないこととする。
- ・一般事項に設計に対する新知見を考慮する旨を記載すること。

○因子2 安全上重要な構築物、系統および機器の状況

- ・「サーバランス」、「ウォークダウン」について用語の定義を追加すること。

○因子3 機器の能力評価

- ・「資格要件」という言葉は以前に修正したタイトルの影響であるため、修正すること。
- ・一般事項に新知見を考慮する旨を記載すること。

○因子4 経年劣化

- ・付属書7.4-1を削除し、本文に取り入れること。
- ・「運用組織の理解度」など、全体的に具体的な説明が必要であるため、付属書への記載を含めて修正を検討すること。
- ・本文7.4.3の視点を付属書7.4-2に記載していると思うが、分けて記載する理由が不明である。
- ・7.3.2における箇条書きが唐突すぎて本文との関係が不明である。

○因子5 決定論的安全解析

- ・「基準の変化や新知見の追加など10年で変化があった部分を探す」という初めのステップが抜けているため、本文になお書きで追加すること。

(4)今後のスケジュール及び文案チェックについて（説明：成宮幹事）

- 次回以降の PSR 分科会の日程は以下のとおりとなった。
 - ・ 第 27 回 PSR 分科会 8 月 8 日 13:00～16:00 (東京大学工学部 8 号館 502 会議室)
 - ・ 第 28 回 PSR 分科会 8 月 26 日 9:30～12:00 (原安進 13 階 1、2 会議室)
- 部会メンバーへのメールでのコメント依頼は、次回 8/8 にドラフトを FIX して実施する。
- 次回 8/8 までに事前に文案を確認すること。特に 8 章を確認すること。

以 上